

一日は白紙
消えぬペンで
文字を書き
あせない
色をぬる
太く・細く
時にはふるえながら
一日に一枚
神様がやってくる
白い紙に
今日という日を綴る



星野富弘 花の詩画集『鈴の鳴る道』収録作品展示

この道を行こう

2018.12.26 (水) ~ 2019.3.10 (日)

開館時間 午前9時から午後5時まで
休館日 2019/1/15(火)、28(月)、2/12(火)、25(月)
観覧料 一般500円(400円)・小中学生300円(260円)
※()内は20名以上の団体、JAF会員料金
※障がい者手帳等をお持ちの方は観覧料の半額

星野富弘美術館

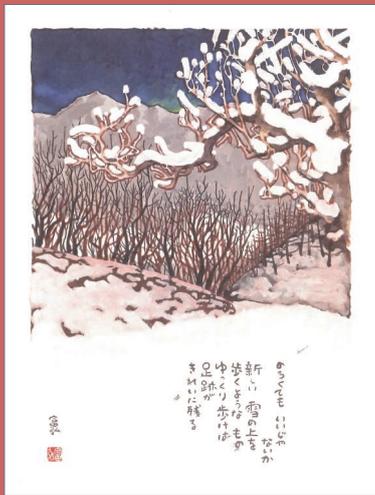
〒869-5563 熊本県葦北郡芦北町大字湯浦 1439-2
TEL & FAX: 0966-86-1600
<http://www.hoshino-museum.com>

この道を行こう

退院後、車椅子で生活する星野富弘にとって、でこぼこや小石の転がっている道は、暗い気持ちにさせるものでした。ところがある日、車椅子に付けた小さな鈴が、でこぼこ道を通り抜けようとしたとき、「チリン」と鳴ります。その心にしみるような澄んだ音色は、星野の気持ちをとても和やかにしました。星野は、その音色がもう一度聞きたくて、思わず引き返し、もう一度でこぼこの上に乗りました。

“人も皆、この鈴のようなものを、心の中に授かっているのではないだろうか。”その鈴は、整えられた平らな道を歩いていたのでは鳴ることがなく、人生のでこぼこ道にさしかかった時、揺れて鳴る鈴である。美しく鳴らし続ける人もいるだろうし、閉ざした心の奥に、押しえ込んでしまっている人もいるだろう。私の心の中にも、小さな鈴があると思う。その鈴が、澄んだ音色で歌い、キラキラと輝くような毎日が送れたらと思う。私の行く先にある道のでこぼこを、なるべく迂回せずに進もうと思う。(『鈴の鳴る道』より)

本展では、星野富弘 花の詩画集『鈴の鳴る道』に収録されている詩画作品を展示します。すべてを受け入れ、詩画を描くという希望を実現した星野富弘。故郷・東村での家族との日々の生活の営みから生まれた作品の数々を紹介します。



「雪の道」1986年



星野富弘

1946年、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。群馬大学教育学部卒業後、中学校の体育教諭になるが、クラブ活動（器械体操）の指導中、模範演技で空中回転したとき誤って頭部から転落。頸髄を損傷。首から下の自由を失う。入院中、口に筆をくわえて文や絵をかき始める。前橋で最初の作品展を開く。退院後、雑誌や新聞に詩画作品やエッセイの連載を始める。1982年、高崎で初の「花の詩画展」を開催以降、全国各地、また海外でも開催され、現在も続いている。1991年群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に富弘美術館開館。現在も詩画やエッセイの創作活動を継続中。著書多数。

ミュージアムショップ

星野富弘「花の詩画集」や関連書籍、絵はがき、カレンダー等、さまざまな商品を取り揃えています。入館料なしでお入りいただけますので、ぜひお立ち寄りください。



同時開催「冬の展示」

冬の草花を題材にした作品を展示します。



「難転」2008年



「福寿草」2009年

交通案内



- 南九州西回り自動車道
芦北 IC から芦北町湯浦方面へ 12 分
- 肥薩おれんじ鉄道
佐敷駅から車で 10 分
湯浦駅から徒歩で 20 分
- JR 九州新幹線
新水俣駅から車で 18 分

次回展示のご案内

「第 12 回星野富弘美術館詩画公募展入賞作品展」同時開催「春の展示」

2019年3月12日（火）～5月12日（日）

第 12 回詩画公募展の入賞作品を展示します。全国各地から届く、一人ひとりの体験や感性から生まれる「いのちの尊さ・いのちの輝き」が表現された詩画作品を紹介します。「春の展示」では、春の草花を題材とした作品を展示します。

星野富弘美術館

〒 869-5563 熊本県葦北郡芦北町大字湯浦 1439-2

TEL&FAX: 0966-86-1600

http://www.hoshino-museum.com